

(県外就職希望)

希望企業がない 一〇・二％
独立した生活 九・一％

長男のため親と生活しなければなら
ない者、長男でないが親を扶養しな
ければならない者を合合わせると、就職希
望者全体の約三分の一を占め、この
現象は増加する傾向にあるので、そ
の対応策を講じておかなければなら
ない。

五、まとめ

以上の調査分析から、工業高校生
の進路意識を次のようにまとめてみ
た。

適性や能力に不安や悩みをもつて
いるが、高校三年前半までに家族の人と
相談をし、求人票や会社案内書等の情
報を参考にして最終的な進路を決定。

就職先を決定する際、必要な情報とし
て、更にくわしい仕事の内容を要求、
会社の安定性と発展性を重視し、努力
次第で昇進できる仕事、性格や能力
にあった専門技術職、技能職を希望す
る。就職希望地を決める際の基準とし
ては、長男のため県内就職を希望する
者が多く、また、地元には工業専門科
目を生かせる希望企業がないため、
県外就職をしなければならない者も
いる。

昭和五十二年三月 高校卒業者の進路状況

一、はじめに

全日制卒業生総数二万三千五百九十
六人は、前年度に比して五百七十八人
の増加である。その進路状況の特色を
概観するならば、次のとおりである。

第一に、大学進学者数は前年度に比
して男女ともわずかながら増加したも
の、進学率においては、男女とも前
年度より低下した。

第二に、就職者数は前年度に比して
一千七百余人の増加となり、数年来低
下の一途をたどってきた就職率が男女
とも上昇に転じた。

第三に、就職生徒の県内定着率は大
きく見て上昇傾向にあったが、当年度
はついに男女とも過半数となった。

第四に、漸増傾向にあった各種学校
進学者は、前年度同様二千三百余人で
卒業生全体のほぼ一割を占めている。

二、進学状況について

(一) 大学進学

()内は昨年度

全日制の課程二万三千五百九十六人
(二万三千十八人)の二五・九％(二
六・一％)に当たる六千二百二十一
(六千人)が短期大学を含めて大学に
進学した。

男女別に見た卒業生総数に対する大
学進学者の割合、すなわち進学率は、
男子二四・八％(二四・九％)、女子二
七・二％(二七・三％)で両者とも昨
年に比べて、〇・一％の減となった。
男子と女子の進学率の差は二・四％で
この数値は昨年と同じで女子が男子を
おさえている。

しかし四年制大学進学者について見
れば、男子二三・〇％(二三・四％)
女子一〇・三％(一〇・五％)で、今
年も女子の多くが短期大学に進学した
ことを示している。

大学進学者を学科別に見ると、理数
科及び普通科における進学率が高いの
は、昨年どおりであるが、普通科が昨
年より〇・五％上昇したのに対し、理数
科は一八・一％もダウンした。農・水科、
工業科、商業科も昨年を下回っている。

(二) 各種学校進学

一昨年に比べて、昨年大幅に伸びた
各種学校への進学率が、今年度は鈍化
の兆候を示し、特に農、工、商、家
いゆる職業学科で昨年より低くなっ
ているのは注目される。

(三) 次年度進学希望者

来年度再び受験しようとする生徒
(いわゆる浪人)は、二千六百四十四
人(二千八百五十七人)で、卒業生総
数の一一・二％(一二・四％)に当た
り、そのうち八三・六％(七九・七％)
が男子である。女子は四百三十三人
(五百七十九人)で、昨年より減少し
ている。

(四) 地域別大学進学率

県中と相双地区において昨年を下回
っている。

(五) 大学別合格者数

表4は、大学別合格者数を延べ数で
示したものである。現役が百名以上合
格している大学は、東北・山形・福島
・東北学院・駒沢・専修・大東文化
・中央・東海・東洋・日本・法政・明
治・日本(工)であり、東京理科・東洋・
日本・法政・明治・早稲田の各大学で
は浪人の合格者が百名を越えている。
大体において、本県の大学進学の傾
向は、東京指向型であると言えよう。

三、就職状況について

(一) 全般的な状況 (表3参照)

全日制卒業者のうち、就職者の合計
は一万二千三百五十人で、卒業生全体
に対する割合は五二・三％であり、前
年度に比して六百三十五人、一・四％
の増加となった。下降傾向をたどつて
きた就職率が、特に男子において上昇
に転じたことは注目に値する。

男女別・学科別に見ても、商業科女
子がほぼ横ばいであるほかは、普通科
も含めて就職率は前年度よりアップし
た。特に、農業科と工業科の男子及び
普通科以外のすべての学科の女子にお
いて就職率が八〇％を超えている。
就職者実数では、普通科の五千九十
四人が最も多く、就職者全体の四一・
二％を占めている。
定時制卒業者の場合は、本来就業在